

## 第48回市民ふれあいトーク—生涯現役を目指すまちづくり—

日時 平成25年11月9日 15:00~16:30

場所 保健所

### 要約版

#### 《市長》

皆さんこんにちは。今日は大変お忙しいところ、土曜日の午後の時間に市民ふれあいトークにお越しいただき、誠にありがとうございます。今日は「生涯現役を目指すまちづくり」というテーマで開催させていただくことになりました。と申しますのは今年6月に市民モニターの方、メールとかで市政の色々なことについて皆さんの意見を伺ったりしておりまして、今1,000人ちょっとの方に参加をしていただいております。その市民モニターの皆さんに、今後このふれあいトークで扱うテーマについて、どういうのが興味がありますかと問い合わせをしてみました。そうしましたら、勿論観光とか子育てとかゴミとか色々な選ぶ項目があったんですけど、何と65%の人が健康と生涯学習を選ばれたというのがございまして、一度この大きなテーマであります「生涯現役を目指すまちづくり」をテーマとして採り上げてみたいということで、今回のテーマとなったわけでございます。

最初に市の現状とか、社会の中での動きとかをお話したいと思いますが、その前に皆様にご報告がありまして、皆さんもテレビでご覧になったかと思いますが、わが町出身の星野監督が日本一を成し遂げられ、昨日、倉敷に帰ってこられました。本当は倉敷市の方から高橋大輔君の時みたいに、駅からパレードをしたいと思って申込みをしていたんですが、実はご存知のように東北のチームでいらっしゃって東北の仙台のパレードが11月24日からで、それよりも前に倉敷でパレードはちょっと難しいということがございまして、昨日は倉敷の関係とか野球チームとか明治大学のOBの方とかが集まり、祝勝会をしたり。マスカットでキャンプを張られて、昨日は則本選手それから藤田選手、聖澤選手、それからコーチ陣も佐藤義則さんとか鈴木康友さんとか仁村徹さん、米村さんとか来られてまして、とにかく倉敷のキャンプは楽天にとって非常に大切だということを言われまして、勿論、星野監督の故郷だということもあるんですが、星野監督も故郷だから持ってきているんじゃないと。何故ならば天気が温かいというのが事のほか選手にとって良いそうなんです。市民栄誉賞をお渡ししまして、星野監督も大変に喜ばれておりました。楽天の監督になった時には、こんなに弱いチームでどうしようかと思っていたが、3年目にこっちに帰って来て、凱旋できてよかったと言われてましたんで、本当によかったと思います。

それで今日は「生涯現役を目指すまちづくり」というテーマですが、生涯現役ということで我々にとって健康、そして生きがいは大変大切なことであり、皆さんが元気で生涯、倉敷市で活躍していただくことが、何より大切であると思っております。今日のテーマとなりました。生涯現役とパラレルですが、高齢社会とか、超高齢化社会と言われてはいますけれども、そもそも皆さんも新聞とかで見られていると思いますが、高齢者の定義というのがありますよね。何と今現在は、65歳から高齢者だと、これは全然実態とあってないです。全然実態とあってなくて、皆さんは社会で活躍されたり、地域で活躍されたりしているわけですが、国もこれがあってないということで、見直しをするということになってきておりまして、私は70歳以上を高齢者にされるんじゃないかと思っていたんです。どうも75歳以上が高齢者になられるような感じもあり、まだ正式には決まっていないうですけども、今元気な年配の方が沢山増えているということで、国も見直しをしたいというこ

とだと思えます。一方で日本の人口構成では、今の区分の65歳以上の方は、全体の4分の1ぐらい、25%ぐらいの方が65歳以上ということになっております。倉敷も大体同じぐらいで、25%ぐらいでございますけれども、2030年ぐらいになりましたら、これが30何%ぐらいになりまして、3人に1人は65歳以上と、その頃には多分65歳という区切りはないと思えますけれども、年金とか色々そういうこともありますので、一応区切るとそういう人口構成になるということです。ということは社会の担い手が全般的に年齢が上がり、且つ子供さん、倉敷も子育てするなら倉敷ということで頑張っておりますが、今日子供さんも参加していただきまして史上最年少の参加者という気がしますが、元気で子育て支援も頑張っていくわけですけれども、全国の人口の関係もありますので、この日本国がこれから元気に且つ倉敷市や岡山県が元気で成り立っていく為には、我々、皆さんが頑張って社会を引っ張っていかないと町が成り立たなくなるということが、どうしても明らかじゃないかと思えます。

その時に「生涯現役を目指すまちづくり」ということで、何が大切なのか、皆さんが何をもっとやった方がいいとか、自分がこういうことに取り組んでいるんだけど、もっと皆に広げたらいいとか、そういうことを今日皆さんで意見交換ができればと思っております。本当に地域でも地域の皆さんの健康を守る愛育委員さんをはじめ、栄養改善協議会の皆さん達、また地域のいろんな自治会や町内会、公民館活動など皆さんがしているわけですけれども、なかなか色んな課題もあるんじゃないかとも思えます。それからお互いの活動のことが、まだあまり知られていないこともあるかも知れません。市としてもっとこういうところにPRをしていってもらいたいとか、そんな色んな意見をいただければ有難いと思っております。

ちなみに今の日本国の平均寿命は年々伸びてきておりますけれども、男性が確か79歳、女性が85、86歳ですかね。ということでして、全国の中では岡山県は上から5、6番目で、男性が10何番で女性が8番ぐらいでしたかね。ちょっと私に気になるのは、その中で健康寿命ということがございます。平均年齢自体は79とか85、6ということなんですけど、その中で健康で、ずっと病院で寝たきりとか家で寝たきりにならないで、何歳まで健康かというところが、男性が79の内70歳までが健康な人が多いと、それから女性が85、6歳の内で72、3歳ぐらいまでが健康な人が多いんですが、その後の非健康と言いますか、健康寿命ではない所に入る人が割りと多いということが、出ているみたいでございます。そういうカテゴリーで計算をしますと、さっきの平均寿命だったら男性が全国で上から10何番だとか、女性が上から8番ということなんですけど、健康寿命で見ると何と男性が下から7番目ぐらいですかね、40番ぐらいだそうです。女性は中盤ぐらいですかね、20何番か、30番ぐらいだと伺っております。ここをどうやったら皆さんが健康で頑張ってもらえるか。且つ健康だけじゃなくて、とにかく生涯現役ということで。皆さんの健康が良くなるようなまちづくり、それから生きがいのある暮らしを送っていただけるまちづくり、それから安心して暮らせる、例えば交通とか、道がバリアフリーになっているとか、そういう安心して暮らせるまちづくり、それから地域で皆で協同して支え合って暮らしていきましようというこの大きな4つぐらいの項目で挙げて色んな取組みを市としてもやっていきたいなと思っている状況でございます。細かいことは申しませんけれども、こういうことを市として項目に置きながらやっているということを基にして、少し皆さんにご意見を頂きたいと思えます。社会の中でも本当に、この前もやなせたかしさ

んが90おいくつでしたかね、それから日野原重明先生も今102歳ぐらいですかね。郷土の岡山県内でも平櫛田中さんも106か7歳ぐらいまで、60、70は鼻垂れ小僧と言われてましたし。ですので、いかにして皆さんが元気で地域を支えていただけるかということ非常に市としても大きなテーマとっておりますので、皆さんの方からこういうことが重要なんじゃないかとか、もうちょっと改善できたらいいなとかありましたら。

### 《参加者Aさん》

私は別に市長にベンチャラを言うわけではないですけど、この市民ふれあいトークに第1回目からずっとほとんど出とんですけど、それプラスここでも良く言うんですが、市議会に出させてもらおうと市長のものの考え方とか、市政の運営というのが私らみたいな市民にも非常に分かりやすいわけです。

私の個人的なことを言うと、私は4時前に起きて自分で5時に食事を作って5時半には散歩に出かけます。大体家に帰るのは7時半ぐらいで。前は、1万歩くらい歩いてたんですが、今は5000歩ぐらいに落とすとんです。皆さんも健康志向でやると、市の財政負担も少し楽になりますので。僕もこの歳になるとちょっと血圧が高かったり若干するので病院の方にはお世話になってますけれど、皆さんやっぱり保険を圧迫していると思うんです。我々が良く集まって話をすると、我々は現役世代に迷惑を掛けることが多いので、自分のことは何でも出来ると、衣食住、私は実際にやるとんですけど。食は男は苦手だと思っんですけど、奥さんに任さずに自分で食事を作ると、薄味にして健康になるとか、食は生きることにつながるんで。我々が生涯現役でやろうと思ったら健康が無いと何も出来ません。私も、実は双子の孫がおってここに来るまで、ずっと孫の面倒を見ていました。子育てを実際しとんです。倉敷市を自転車に乗せて大体こっくりこっくりやるんで、私のペダルを踏む運動にもなるし、孫の教育にも良くなって、最初起きたら「じいちゃん」と言って私の所に来ます。皆さんも私の一つの例ですけど、私はやることが多いんで、野鳥の会に入ったり、友達の世話をしたり、色々しているんですが、皆さんも出来るだけ自分で時間を作ってすれば何をするにも楽しいです。健康で頑張ってください。

### 《市長》

生涯現役にもつながるんですけど、星野さんが今66です。今回楽天の選手たちは新しい球団で若い方が多いんですけど、今回勝った大きな理由はコーチ陣にあると思うんです。ヘッドコーチは前、田淵さんだったんですけど、今辞められて佐藤義則さんなんです。それから仁村徹さんとか鈴木康友さんとか、一番年上は佐藤義則さんで60ぐらいですか。コーチ陣が、年配というのも何ですけど、40なんぼとかじゃなくて色んな経験をしている人が、うまく選手を指導されているというのが、今回の大きな勝因だったと思いますし、野球界では生涯現役、星野監督はこれからまた複数年ですから、これからあと2、3年といたら70くらいまでは絶対監督をされると思いますんで、目標をもってされるというのが、いかに大事ななと思いました。さっきの市内の人口のことも言いましたけれども、今100歳以上の方は倉敷市内には200人くらいなんですけど、100歳と言うとハードルがあるような気がしますけど、90歳以上の方が何人いらっしゃると思います？5600人ですよ。沢山いらっしゃるんですよ。これぐらいだったら自分でもいけるように思

いますよね。皆で是非頑張っていきたいと思います。子育ての方もしっかりお願いします。

### 《参加者 A さん》

星野さんは66歳でまだ当分されると思うんですが、市長も是非、生涯現役で倉敷市政に努めて頂きたいと思います。

### 《参加者 B さん》

私は食に関するお話をさせていただきたいんですけど、人間として食の知識を身につけて料理を作るということは、男女の差なしに、健康に心豊かにする為の条件だと言われてます。シニア男性にとっても、生涯現役を目指すためには、その修得は重要なことだと考えられますので、今日はそういう切り口でお話をさせていただきたいと思います。

倉敷市の調査では、男性の63%が食の知識と調理技術が乏しいという結果が出ております。それから倉敷市の63歳から73歳の男性を対象にしますと、その63%を掛けますと、約16,000人の方が料理初心者と推定されます。これを受けて倉敷市では市内の6個の公民館で、シニア男性を対象とした料理教室を開催しております。しかしながら現在の公民館講座は受講者の中にリピーターの方が7割から8割いらっしゃるために、初心者から見ると入口が狭く、うまく受講できても、中学生の中に幼稚園児がいるようなかたちのため、効率的に学習しづらいというような環境がございます。この対策としては初心者限定の男性料理教室を作るというのが有効なんですけど、公民館サイドで永続的にそういう新人を確保するというのが、地域が狭いものですから難しいとの理由で、現在この考えは採用されておられません。一方で、市民の食育推進を担当されている健康づくり課はシニア男性の食育については手がけられていますけれども、年間で数日の教育しか実質的にはできてなくて、修得レベルには程遠いと考えています。

つまり市の行政の観点から見ますと、男性料理教室については公民館を市民学習センターが管轄してまして、全体的な市の食育推進については健康づくり課さんが管轄してありますが、料理初心者のシニア男性を効率的に教育するという点では、エアポケットのような状態ではないかと思っております。そこで私どもは市民企画提案事業制度を使って、料理初心者のシニア男性を対象にして、「男おひとりさま料理カンタン教室」という料理教室を平成23年度からスタートして、24年度、そして今年25年度は健康づくり課さんと協働事業で継続しております。この事業については市民活動推進課さん、健康づくり課さんには大変お世話になっております。この教室は具体的にはライフパーク倉敷で年間2回、夏と冬に開催して、その各期は7回でものにすると。応募の方は毎回料理初心者のシニア男性18名を新規に募集して、コーチ陣は先生と3名の男性サポーターをつけまして、写真付きのレシピによる詳細な資料とか、細かい指導を行ってまして、現在84名の卒業生を出しております。アンケートをとっておるんですけど、講義内容が料理作りのきっかけになるということと、更に半年後、2年後に卒業後の調査を行なってまして、その中で8割の方が自宅で料理を継続して作られているという結果を確認しています。

一方、市民企画提案事業の運営は年数の上限がMax5年ということで、今3年やりますので、あと2年残っています。だから事業終了後の教室運営を考えておく必要がございます。その方策としては、1番目に考えられるのは完全民営化した教室づくりでありますけれども、それで公民館の講座が1回当たり750円ですね。完全に個人でやると、2

500円以上かかってしまうということで、なかなか受講生が集まりづらいだろうということで、2つ目に現状では健康づくり課さんの見解では団体に委託して行なうのは制度がなく、その採用は難しいということを知っています。以上のようなことから、我々はニーズの浸透とか、実際、運営上の問題点を整理して、その結果、今のスタイルの教室が必要と認められれば、さっきの自主自立方式か、あるいは難しいことかも分かりませんが、できれば市の体制の中に取り込んでいただくことを検討していただきたいと、今日説明させていただいた次第です。

#### 《市長》

今、男性の料理のことについて重要なことを言ってくださいます、男性が勿論、男女共同参画、ワークライフバランスの観点から、お家で、また社会で料理に関する家事のことを色々できるようになっていただくことは非常に大きなことで、且つこれから人口構成が変わっていく中で、また男性が定年後に地域の中で活動をされるときに、料理は自分にも役に立ちますし、また奥さんにも役に立ちますし、またそういう講座がありましたら、社会の中で人と触れ合うにも大変役に立つと思います。ただ今のお話ではリピーターの方が多いということで、初心の人が入りにくいような状況にもなっているということですね。その後どうやって全体の健康につなげていくかが課題だということですね。

#### 《参加者Bさん》

初心者の方が大量に毎年リタイヤされる方がいらっしゃいます。そういう方がいずれ大量に来ていただいて、短い時間で修得していただいて、そういうことをどんどんやっていると元気に繋がらないと危惧しております。

#### 《市長》

分かりました。私が答えを直ぐパツと言えないんですが、今のご指摘の点は公民館講座だけで終わらせるのはもったいないと思いますので、その健康の面と併せて前に進めていければいいなと思いました。感想位で申し訳ありませんけれど、ありがとうございます。

#### 《参加者Cさん》

今日は私の話じゃなくて、ご近所の80何歳の方の話で来ました。市長にはお土産（手作りのカーテン止め）を持って行ってくれと言われて。大阪の方へ送る便がありましたので、3つぐらいお菓子の中に入れて送ると、某私立幼稚園で評判がよくて、あと200数十個作ってくれと言われ、今増産体制。それでカーテンを挟んでください。200数十個を作っているんですが、材料費も要らないと。手間賃も要らないと。それで話を聞いてみたんですが、それを作る場所がほしいと。「公民館があろうか」と言ったら、公民館まで行くのは遠いと。借家を市で借上げてもらって、そこで男の人は将棋をしても良いし、マージャンをしても良いし、碁をしても良いし、女の人はそこで手芸をやりたいという話が出たんです。それで学校から帰ってきたら、行く所がない子供が沢山いると思うんですが、そこら辺も受け入れて、決して家を建ててくれとは言いません。空き家をお借りできないかと。公民館があろうかと言ったら、理由を書けとか、何書け、何時で終わり

だと。それがなくて誰でもすつと行けて、そこに参加できるというふうにお願いできんでしょうかという話でした。ちょっと話が極端で申し訳ないんですが、幼と老と成が入ってそういう公民館活動の。ちょっと遠いんですよ、住んでいる北畝6丁目で。大きな道路を渡って行くというのは、年寄りには非常に酷なんです。それで公民館を建ててくれとは言いませんけれども、年間60万から70万いるんじゃないかと思えますけど、電気代は使うものが負担せえよと言ったら、それはしますと言う話で、申し訳ないんですけど自分の話しじゃなくて、ここへ来るための宿題を貰ってきました。一つよろしくお願ひします。

## 《市長》

貴重なお話を頂きまして、ありがとうございます。今のお話でも、勧めていただいたように本当は公民館でできれば一番いいなと思います。そのために基幹公民館とか、ライフパークとかを造っておりますので、そこで活動していただければ一番ありがたいと思うんですけども。一方で今のようにちょっと遠いとか、手続きがややこしいとかもあると思います。それで、今お話を頂いた中で、非常に重要だと思ったのは、この洗濯バサミを使ってこのカーテン止めを作られて、幼稚園とかに贈られて非常に評判が良いと。それでこういう皆さん自慢の技を、自分で作って幼稚園とか保育園とかに、すごく喜んでもらって生きがいを持って、頑張ってくださいていることだと思います。そういう思いを持ってくださっている方が、きっと沢山いらっしゃると思うんです。その皆さんがどうやって活動していただけるか、活動いただきやすいような環境を作っていくかというのが、今のお話の重要な所だと思いました。今日は教育委員会の人は来ていないんですが、一方で課題になっているのが小学校の子供たちのことです。子供たちも大阪の池田の小学校のこともあったんで、一時は校門をバッチリ閉ざしてしまっ、外からの人は学校には入れません、ということが多かったんですが、最近少しそれがゆるくなったというか、緩和になってきているように思います。また学校の児童クラブがございしますが、児童クラブで地域の方が色々教えてくださったりということも出てきていますし、それから今の井上教育長になって、各学校が地域と一緒に色々やってもらうように、ということを進めないといかんということをおっしゃってまして、お家からお近くになるのかどうか分からないんですが。今後お家を借り上げできれば良いんですが、それはちょっと難しいかと思ひまして、地域の集会所とかがお近くにないんですかね。あれば地域の集会所とかで地域の人が寄ってというのがあれば一番良いんでしょうけれども、小学校を色んな核にして皆さんが活動していただく、活動だけじゃなくて当然子供に教えてもらったりとか、皆さんに取り組んでいただいているゴーヤとかと一緒に植えたりとか、刈り取りしたり、花と一緒に植えましょうとか、色んな昔のことを教えましょうとか、そのことが子供にとっても社会のことを良く知ったり、秩序を知ったり、また年配の皆さんもやりがいを感じていただいて、益々元気になっていただける大きな事じゃないかと、今のお話を伺ひまして思っております。家を借上げるのは難しいんですが。何でも仕組みばっかり出来れば良いとは思わないんですが、学校とか地域の集会場とか市の公民館の活動が基本になっている所が多いと思うんですけども、これからそれだけじゃ足りなくなると思ひますし。もっと広げて皆さんが活動いただきやすいような方向を、市民学習センターも、皆さんの健康のことに力を入れている保健所も、一緒に考えていきたいなと思ひました。借上げのお話は申し訳ないんですが、よろしくお伝えください。ありがとうございます。

### 《参加者Dさん》

栄養改善協議会のものです。倉敷市でも食育基本法ができて以来、栄養委員の活動が活発で忙しくなってきました、各地方で食育も重要視されていますし、先ほど市長さんが言われたように健康寿命の問題も私たちもすごい気にしているんですが、栄養委員の認知度が低くて「栄養委員って何？」ということですのでよく聞かれることが多いんです。そのPR方法も考えてはいるんですが、私たちだけではなかなか難しい所がありまして、また栄養委員になるための栄養教室にも各学区2名で参加してもらって10回講座を受けていただくんです。それに出るのも若いお母さん方とかはこれから働きに行く、いい加減高齢になった方は、自分の趣味を活かしたいということで、なかなか成り手がいないんです。なったとしても活動の場が公民館とかでするんですけど、有償でお金がある所もあるんです。ボランティアでしてますんで、減免でもしてもらわないと、ボランティアから頂いているお金だけでは、ちょっと難しいところもあるんで。そういうことでPRも頑張りますけど、その辺いい意見があれば教えていただきたいなと思います。

### 《市長》

栄養委員さんに本当に地域で頑張っていて、誠にありがとうございます。食育こま回しのPRもそうですし、男性の栄養の教室もまた違う観点でしていただいたり、子どもさんの栄養バランスとか行なっていて、本当に色々な面でありがたいと思っております。確かに民生委員、児童委員さんと比べると、名前がまだ知られてないかも知れないですね。地域のことで民生委員さん、児童委員さん、それから愛育委員さん、そして栄養委員さん、市民の健康と生活を守っていただいているわけですが、まだまだ市の方でPRが足りないんで、是非広報紙等でも更にPRをしていきたいと思っておりますし、活動の、多分市民交流センターとかの見直しがあつての事を言われたんじゃないかと思っておりますので、今課題として検討しております。皆さんが地域で且つ市からの使命を受けてやっただけだと思っておりますので、何かいい方法がないかなと思っております。今の状況ではありますが、また来年度に向けて検討してまいりますので、くれぐれもよろしく申し上げます。ありがとうございます。

### 《参加者Eさん》

今朝も市民大学連携講座を受けて来たんです。大学連携講座をずっと受けさせていただいて、結構充実していますし、毎回多くの方が聴いているんですけども、基本的にはさわりの部分だけだったりとか、本来授業でやっているものとは別の講座だったりとかするんです。大学をもうちょっと活用していただいて、フルで大学の入試をもう一回受けて通常の正規の授業料を払ってという、なかなかハードルが高くなってしまいますので、できればシニア聴講生というような形で、週に1回2時間だけとかで、格安で大学の授業を受けられたら、行かれる人もいないかなと思うんです。全部の授業と言ったらやっぱりかなり幅も広いですし、この先生の授業だけちょっと聴いてみたいんだというので、例えば半年間なら半年間という形で授業が受けられるような仕組みができれば良いんじゃないかな

いかなと思うんです。特に市立短大さんなんかは地元にある公立の短大だし、アパレルの関係の方も沢山いらっしやると思うんで、もう一回学び直したいという人もいるんじゃないかと思ひまして、以上です。

#### 《市長》

はい、ありがとうございました。今日、大学連携講座は何を受けていただいたんでしょうか。

#### 《参加者 E さん》

川崎医療福祉大学さんで、フェルメールの贋作の見分け方を。

#### 《市長》

ありがとうございました。大学連携講座のことは知らない方もいらっしやるかも知れないんですけど、倉敷市内には今11の大学、短期大学、高等教育機関がありまして、まず倉敷芸術科学大学、それから作陽さんが作陽音大とそれから短期大学さんと、それから有城の岡山学院大学、学院短期大学と、それからうちの児島の市立短期大学、それから玉島の職業能力開発大学校、それから川崎さんが医科大学、福祉大学、医療短期大学、岡大の資源植物研究所がありまして、折角11も大学がある所はないわけですので、そこから市民の皆さんに知ってもらえるように市の企画の方で色々相談しまして、各大学から自慢の先生に講座ということで来て貰って、市のライフパークで講義をしてもらうという1回とか2回とかというのでとっていただくという、非常に人気の講座であります。

今のお話では、それをきっかけにして大学の方に行って講座を取れるようになったらいいんじゃないかということですね。私もそう思います。今シニア聴講生みたいなのが、できれば良いんじゃないかと思ひますし、またその大学連携講座の大学のその講座の担当の企画会議みたいなのがあるんです、定期的に。そこで大学連携講座も今3年目か4年目ぐらいですかね。段々馴染んできたので次の段階で、今言われたような大学へ、我々が行ってもっと講座が受けやすいようにするというのも、また提案してみたいと思ひます。大学の方も、今申しました大きな4つの学園は、それぞれの地域の広域避難場所ですと市と協定を結んでますので、以前はなかなか大学も扉を閉じている所もあったんですが、今は避難場所としても来て下さい。大体高台にありますから安全な所ですので。大学の講座にも来てもらえるように思われているはずですので、また提案してみたいと思ひます。

#### 《参加者 F さん》

遊び場を考える会の者です。生涯学習課の方とも、冒険遊び場事業ということでお世話になったりするんですけど。ちょっとポスターを貼らせていただいています。皆さんは多分、ガキ大将とか、そういう集団があったと思うんです、子ども社会が。でも今の子どもたちは本当にそういう所が無くて、色んな問題が起こってると思うんです。岡山でもワースト何番みたいなのがあったりして。私の子どもはもう21ですけど、こどもが1歳の時に世田谷の方に転勤になり、そこで子どもがプレイパークとか冒険遊び場とか呼ばれてる、本当に子どもたちがやってみたくて思ひ出せる場所だったんです。子どもたちがすごく目を輝かせて遊んでたり、大人が教えなくても、けんかはするんだけど、思いやりを

もって育っていくという姿を見て、今すごく社会に欠けてるんじゃないかと思って。14年前に母親たち5人と始めて、今14年目になるんです。刃物を取り上げるんじゃなくて使わせてみる、道具として使うので、人を殺める道具には使わないとか、大人が頭から教えるんじゃなくて、実体験としてそういう場がないなということで、本当にやってみたいということが出来るような遊び場をやっているんです。学校に居場所を見つけられない子どもが結構いたりします、今。そういう子ども誰でも来ていいよと受け入れて、そこで大人と出会ったりして、貴方こういういいところがあるじゃない、と言ってくれることで、自己肯定感を取り戻して、学校に行けるようになった子ども実際にいたりします。発達障がいも最近多いと言われてるんですけど、外で泥んこになったり、色んなことをしながら遊ぶ中で、子どもが相手との距離を計ったり、みんなと仲良く出来なくても、距離感を持ったりとか出来るようになってきています。なかなか発達障がい認められない親もいて、ここに来て、よその子を見ることで分かってくるんです。情緒障がいと判断されて、高校になったら支援学校ということで、親も認めて行けるようになっていたりして。

今日のテーマなんですけど、前、ボランティア養成講座というのを市がされていたところに、受入団体ということで行かせてもらって、ボランティア、団塊の世代の大量退職の時に、80歳のお年寄りの男の方なんですけど、10年ぐらい前にこられた時に、一人暮らしでお孫さんは県外にいらっしゃる。で、自分の年だと周りが結構同じような年代なので、やっぱり子どもから笑顔をもらえるということで、うちの会のほうへボランティアですごくいきいきされて。今、同居されてる方もいないので、自分のおじいちゃんではないんだけど、お母さんたちが子育ての悩みとかを、市に電話して言うことでもないんだけど、気軽に相談できたりとか、色んな経験とか得意分野というのを発揮してもらって、そこでいきいきとされていて、そういう対話も生まれますし、子どもから笑顔ももらえるというふうに言って下さってます。だから、ぜひ力を貸していただけたらと思います。

### 《市長》

ありがとうございました。PRもいただきまして、大変重要なことだと思います。いま言うて下さったように、遊び場を考える会、最初は子どもさんのお話をしてくださったように聞こえましたが、年配の方も子どもさんと触れ合ったら、おじいちゃん、おばあちゃんも元気になるということだと思います。

それで、いい例といいますか、一つ倉敷市で今後いろんな活動をするところで、ちょっと検討していきたいと思っていますのが、今連島の憩の家というのがあるんです。これまで憩の家というと、年配の方専用という感じにちょっととられるところがあったんですが、そこは憩の家の中に、子どもが遊ぶところ、室内なんですけど、併設してまして、そうしたら学校から子どもがランドセルを置いてすぐに行って、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒に遊んだり。子どもにとってもおじいちゃん、おばあちゃんにとっても、子どもの居場所にもなるし、生きがいにもなるしというのを、非常にうまく行っている例だと思います。今なさってる活動も、もっとそういう部分が出てきたらいいと思います。市もPRのほうもご協力させていただきたいと思っておりますので、頑張ってください。

### 《参加者 G さん》

西岡在住の者です。市長にこういう質問をしていいのかわからないんですが、私

は岡山県警に文句言いたいんです。何かというと、大島の交差点、南から北に行く交差点と、それから北から南にゆく交差点、旧2号線がたくさん混んでるんですが、私はあの信号を、南行きと北行きを一つにしてほしいんです。何かというと、旧2号線は一本なんです。ところが、南から北へ行くのがストップして、そこから、北から南にいく信号が変わるわけです。それを矢印が出るんだから、私は同時にしてもらえれば、少しでも時間が短縮、その交差点の旧2号線の赤時間が短くなって、と思うんですけど。

#### 《市長》

テーマとの関係も言っていただけるとありがたいんですが。関係はないですか。また後でお聞きしますので。また倉敷警察署のほうにはちょっと言わせていただきたいと思います。市民が困っていることではありますので、よく分かります。ありがとうございます。

#### 《参加者Hさん》

私は玉島の栄養改善から来たんです。玉島では毎年「ちびっこ大集合」をしてるんです。今年は交流センターでさせていただいたんです。やはり資金、それこそ部屋代とか色々物がかさむので。今、愛育さんのおかげで「わかちあいの会」からお金を融通してもらっているんですけど、それも底をついているようなので段々と会を催すのが難しくなる。私たちは小さい子の相手をするのは、歳をとってからは生きる喜び、ギャーギャー言う声が楽しいんです。出来るだけ協力させてもらっているんです。だから今年もサツマイモを提供したんですけど、毎年自分の所にある作ったものを提供できるとは限らんから、少しでも活動費を増して欲しいなと思うんです。

それからもう一つは「親子クラブ」。地区でパンダとかコアラとか、色々な所で親子クラブをしています。私らもしてるんですけど、本当は年に3回も4回もしてあげたい。でもそれこそ活動費が少ないから。私は自分が好きでしょんだからと思って、自分方の食材を持って行き、自分が自腹を切り、ある所ではバザーをして、それを得てするんです。お寿司なんかだったら高くつくので1回ぐらいしかできないんです。だから少しでも活動費が欲しいなと思うんです。皆が伝えてくださいということなので、よろしくお願いします。

#### 《市長》

さっきもお話ができましたように、市民交流センターを作りまして非常に良く使っていただいているんで、大変ありがたいわけですけれども、一方で前と使い方が変わってという所もありまして、費用とかの面で使いにくいというお声も頂いておりまして、検討中なので、今何ができますと申し上げるのは難しいんですが、本当に皆さんが、栄養委員さんも愛育さんもボランティアで、市民の健康のために頑張っていただいているんで、少しでも何か市の事業として一緒に出来るようにならないかというようなことも考えていければいいなと思っておりますので、また予算の時期に向けて検討させていただきましよう。

#### 《参加者Iさん》

水島の者です。私は70歳までは岡山県とか倉敷市のほうに行って、仕組みとか、どんな方向に向かっていっているのかと色々勉強させていただきました。70歳を過ぎまして、

これからは地元へ何か還元できないかということで、愛育をさせていただいております。

特に今、健康くらしき21Ⅱの中で、運動ということに力を入れておりました。ということで、エンジョイスポーツの方々とかと一緒に、やっこの水島学区で健康サロンというのを立ち上げることができました。愛育だけではどうしてもできないので、地元の公民館とか民生委員さん、それから包括支援センターの方々などいろんな方のお力をお借りして、この19日に立ち上げる場所なんです。先日チラシを作って地元の人に報告したら、エンジョイにも行きたい、だがライフパークまでは遠い、だけど、こういうふうに地元でしてくれるというのは非常に有難いということで。計画書も出してはおりますけど、何をするにしても、資金が必要だということで、地域の協議会にかけましたら、応援すると言って下さったので、今度は嬉しいなと。素人では出来ませんので、運動指導員の方々を毎回お招きしながらしていこうか、また地域の方々と交流もしていきたいということで検討中なんですけど、まずスポーツのリーダーの方々に、色々な角度から保健師さんたちを通じて託していきたいなと思っています。そういうことで、自分は生涯現役でいきたいんだけど、やはり若い方にバトンタッチが出来るような、育成というものを考えながら、今進めているところであります。

#### 《市長》

健康サロンを今度19日から始めていただけるということで、誠にありがとうございます。また、地域（水島小学校区）の（コミュニティ）協議会、多分「（水島学区）公民支館協議会」ですよ？皆さんと一緒に協力させていただいており、地域のスポーツ指導員の方、これも大変大切なことなんですけど、倉敷市の体育協会の方も、以前は体育協会というスポーツの強くなるほうに力を入れていらっしゃる、メインのように思われてたんですが、今やはり健康長寿社会ということで、市民の健康づくりのほうにも、もっともって力を入れましょうと。だから強い高橋大輔選手とか、そういう選手が生まれてみんながスポーツを、いいとか元気になるな、とかいうのだけじゃなしに、地区の中でみんなが気軽にスポーツをしてくださったりということに、力を入れていこうということで、指導委員の皆さんも体協の皆さんも、考えを重要だとしてくださってるということで、ご協力をきっていただけたと思います。また今後の様子も聞かせて頂きたいと思います。

#### 《参加者Jさん》

食事のことで、倉敷は野菜とか果物がすごく多いので、食べる順番を。私も食事の最後に果物を摂っていたんですけど、朝一番に摂ると、空腹の時、おなかが空いている時に摂るとでは。果物や野菜は煮たものより、生で食べられるものはなるべく生で、サラダにしたり。そのまま食べるのが嫌であったら、果物と混ぜてジュースみたいな感じにして飲む。それだけですけど、本当に体が中から健康になりますので、ぜひ実践してほしいなと。本当に、体が知らないうちに元気になるので。食べる順番を、満腹になって食べるんじゃなくて、空腹の時に食べる。なので、朝一番が一番効果的ですけど。私は朝食はフルーツだけなんです、今だったらミカンとかリンゴとかを食べてという感じで。それからサラダもこの辺は、無農薬とかもいっぱいあるので、もったいないなと思うくらい、生で食べられるのがいっぱいあるので、ぜひもっとお店とか市役所の食堂にもサラダバーみたいなのが欲しいと思うくらい。ちょっとやってみていただければ、本当に体の中から変わる

ので、ちょっとやってみて欲しいなと思って、今日はやって来ました。何か、酵素とかが関係しているというのを、後で本で読んで知りました。

#### 《市長》

なるほど、ありがとうございました。一日全体としてはバランスよく栄養を摂らないといけないと思うんですが。食べる順番で変わってくるというのは、確か最近テレビとかでも言われてるとかかかっております。お肌のつやもピチピチされていますし、きっと実践していいんだと思います。私も試してみたいと思います。

#### 《参加者 K さん》

ふれあいトーク最年少の1歳1ヶ月の子を連れてきました。私は今、外遊びサークルというのをやっています。レインボーという名でこの春から活動し始めています。その代表をしています。あと、子どもの遊び場を考える会のスタッフもやっています。それと今、倉敷市で子育て支援センター、くらしのことかいろんな場所で開設されていて、とても活用させていただいてます、ありがとうございます。

同世代、子育て世代の人と関わることも多くなってきてるんですが、今回のテーマの「生涯現役を目指す」ということで、子育てが終わった世代の方と触れ合う機会がなかなかないので、8月のふれあいトークで言われていたように、地域でのつながりですか、3世代のつながりが薄くなっているというアンケート結果を市長が言われていましたように、もっと世代間が交流できる場が欲しいなと思ってます。それで、子育て支援センターや公民館、ライフパークの施設は室内型が多いんですが、子育て世代からいえば、やはり子どものパワーは屋内だけでは収まりきれないので、屋外型ですね、外で一緒に交流できる場を、地域の場というところを作っていただきたいなという思いがありまして、今日来ました。今後のそういうイメージがあるのでしたら、お話ししていただければ嬉しいです。

#### 《市長》

はい、ありがとうございました。今お話ししていただいたように、地域の子育て支援センターとかを各地区に置いて、確か今十数か所、設置をしています。確かに屋内型というか相談をしたりということが多くなっていると思います。一方で先ほどの方も、遊び場のことでお話になっていましたが、やっぱり外で子どもたちが元気に遊んで、それを地域の方が見守ってくださったり、指導してくださったりということが、世代交流に繋がると思います。先ほど学校の開放のことも言ったんですけど、保育園とか幼稚園とか、学校もそうなんですけど、芝生化を今進めてるんです、園庭で。芝生で子どもさんたちがもっと転がって遊んでもらいたいなという思いがあるんです。相談をしているわけではないんですけど、地域の方が学校とか保育園、幼稚園の中に入ってきてくださって、一緒に遊んでもらったりということで危険がないところでないとやっぱりいけないと思うので、そういうところも活動できないんだろうかということを、今のお話をうかがって思いました。まだ、もちろん具体的にはなってないんですが、今後芝生化を進めて世代交流を進めていくときに、参考にさせていただきたいなと思いました。はい、ありがとうございました。

#### 《参加者 K》

芝生よりも、主に泥んこができるように。泥んこが、子どもは大好きなので。

### 《参加者 L さん》

中庄の者です。皆さんとちょっと毛色が違うんですが、私、まだ現役でがんばってるんですが、実は物理専門です。一般論として言いますけども、理科系の専門職、例えば企業の研究職についていた人たちが、東京或いは大阪方面からUターンして、倉敷に帰ってきたとして、相当の知識を生かせる職場、或いは技能を定年後活かせることが、倉敷市役所或いは倉敷市として、どうお考えなのか。私だけのことではなく、一般論として地域の活性化にも有効になると思うんです。大学、或いはクラレの研究施設等もありますけれども、そういったものほどではなくて、相当の理数系の知識を持つてる人が、定年後も活躍できる場があるといいと思うんですが。

### 《市長》

ありがとうございました。今、技術職の方、県外からUターンして来られたり、またもちろん、水島のコンビナートにもたくさんいらっしゃって、定年後に、どう技術が活かせるかということですよ。現状で言いますと、そんなに進んでないのが実態だと思います。ただ、市もハローワークとかと相談をする中で、先ほどの年齢構成が全般として上がってくる社会なので、退職している方が、もっと地域で働いてもらわないと社会が成り立たなくなるといことです。技術力が高い方、国も定年後の方を雇用した企業に対して優遇します、というようなことを始められてるんです。制度はあるんですが、倉敷市内でも使われてるところが少ないんですよ。ただ技術が特に高い、例えば物理とかがどう活かせるか、ということはこちらよく分からないんですけど。退職されたけど、まだ企業で働きたいという方を増やしていかないといけないという面で、国と連携しまして、PRとかをしていきたいなと思っております。

現実、公務員も定年が今60ですけど、今後、伸びる方向に行くんじゃないかと思いません。社会全般と同じように。企業でも今は定年60ですけど、希望する方は65までですかね、働かれるようにされている企業が多くなってきてますので。そこからまた先の65以上のところは、今のところ会社には、雇用の義務はないわけなんですけど、手に技術がある年配の方をもっと会社で雇っていただきやすいような仕組みを。もう一つは技術を持った方が自分で会社を興していただけるような仕組み。この二つを、市や国の政策として進めていきたいなと思ってます。この二つ目がまた重要で、自分で起業されるということで、会社を興して、自分の技術を活かして自分の技術を売り込み、こういう方が増えていただけるようになればいいなと思っております。

### 《参加者 M さん》

愛育委員の者です。愛育委員のことを知ってもらいたいということで、広報紙にも昨年度載せていただきまして、本当に少しずつですけど反響もございました。が、やっぱり日数がたつと忘れられていくのかなという思いがあります。ぜひ、まだまだPRのほうも考えてしていただきたいなと、応援していただきたいなということがございます。愛育委員は大体4,100人位いるんですけど、地域性がございまして、5つの地区があつて、ものすごく頑張っているところとか。どこも足並みをそろえていきたいところなんですけど。

最近では課題として、一つの学区の中でも愛育委員としての活動が出来なくなっているところもあるんです。高齢者ばかりになって無理、というところも出てきました。それからマンションとかが建って、そこは町内には入らないから、回覧も回せないところもあります。そういったところをどう考えていったらいいのかなど。

それから、保健師さんたちとタイアップして、活動してるんですが、保健師さんたちも非常に忙しくて、私も保健所に、一年間でひよっとしたらタイムカード作ってというくらい出て行ってるんです。だけど、保健師さんたちも見ていて、本当に忙しいです。それぞれの担当学区には訪問にも行かなきゃいけないし、地域のこともあるし、かといって日曜日にあんまり出してくれというのも言いにくいです。ですから、もう少し保健師さんを増やしていただけると有難いなと思っています。実はおめでたいことなんですけど、産休になられる方が多いので、一人の保健師さんが、二つも三つも受け持つところもあるんです。そうしたら、どうしてもその保健師さんに負担がかかってしまうので、見ていて本当に気の毒です。お互い一生懸命連携していくには、いいようにやっていかないといけませんので、人員配置を増やしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

#### 《市長》

今日、健康づくり課の者も来ていますが、いつもお世話になっております。ありがとうございます。本当に愛育委員さんも栄養委員さんも、本当に地域の活動に感謝を申し上げますと共に、まち歩き、さと歩きのウォーキングマップが大変好評でございまして、本当に各学区で作っていただいて、委員さんの目から見た、今公民館とか保健所にも置いてあるんですが、自分の学区のマップを、ここに行ったらこういう史跡がありますとか、散歩しやすいコースはここですとか、大体2キロぐらいですとか。マップ、見られた方はどのくらいおられるでしょうか？はい、ありがとうございます、半分ぐらいですね。結構皆さん見てくださっておられますね、でもまだ半分ぐらいの方、ご存じないので。非常に好評なマップですし、もっと増刷していきたいと思っています。地域の中でここはちょっと危ないよとか書いてあったりしますし、大変ありがたいと思います。

それから、保健師さんの数を増やして欲しいとの要望をいただきまして。倉敷市の保健師の皆さん、本当によくやってくれておりまして、大変みんな優秀な人ばかりです。一昨年の東日本大震災の時も、うちの医師と一緒に、いの一番に駆けつけていただきまして、避難所で避難民の健康管理とかしてくれて、大変感謝をされております。私が今思っておりますのは、なるべく、徐々にでも増やしていきたいと思っています。実は倉敷市の採用試験、以前は保健師の方を、採ったり採らなかつたりということがあったんです。退職の人がなかったらゼロということもあったんです。倉敷市は毎年必ず募集がありますよ、何人か複数募集がありますよ、となれば、倉敷市に優秀な保健師が受けてくれる。だから毎年ぜひ採ってもらいたいという話を、中からの要望もあったんですが、そのこともあって、今は毎年必ず採用していくようにしております。それで、皆さんがよく頑張っていると言っていて、本当にありがたいと思っていますので、一挙に急激に増えるのは難しいんですけど、皆さんと一緒に頑張ってもらえるようにしたいと思います。

#### 《参加者 N さん》

生涯現役を目指すまちづくりということをテーマと聞いて、「生涯現役」というのは良く

考えてみると、一般に使われるのは元々若い時に、定年前に、やっていた自分のキャリアを定年後も、会社を離れても続ける、ないしは、例えば弁護士やお医者さんとか学校の先生などで塾だとか、それからレストランですとシェフとか色んな形で、自分がやってきたことを続けるというのが、現役だというくらいに思っていたもんですから。ここにおられる方たちは、先ほどからお話を聞いていると、皆さんちゃんとご理解されているなど。実は私は最初はわからなかったものですから、インターネットで調べたんです。そうしたら、「生涯現役とは、主観的健康感が良好で、自立した生活を送り、いきいきと社会に関わっていること」と書いてありました。これは、姫路市が出しているものなんです。

実は私もボランティアをしばらくやっていたんですが、この夏自分の健康を害するということがあったもんですから、ボランティアをやめたんです。今は仕事があるんですが、これも近々なくなります。するとこれから先、何をしようと考えるんです。姫路市のホームページを開くと、生涯現役の相談の窓口があるんです。こんなことやりたいんだけどもど行くと、相談にのってくれるみたいなんです。今日もそういったことの話があるのかと思って、来たんですけど。各論の話ばかりになったものですから、総論の話としては、そんなことも作ってほしいなど。

それから、今日所長さんがいらっしゃるので、是非お伝えしたいんです。運動するのが健康に非常に良いのは皆知っているんです。ところが長続きしないんです。なんでかと言いますと、運動はやっていたら、同じことの繰り返しなんです。飽きがくるんです。だからどうするかというと、運動することによって、なんか効果がでるといいんです。例えば、ひざが痛い人は歩くとひざが治るんです。勿論、その症状・病状によりますが。そういったことを実感できるとやはり続けるわけです。体調が良くなったとか。例えば、モニターを募って、血圧がさがったよとか、糖尿病にならずにすんだよとか、そういう成果をわかるようなシステムを作っていたら、長続きします。

### 《市長》

今の相談の窓口というのが、最初にお話できれば良かったんですが。生涯現役ということに対する窓口は、今はないんです。ただ市のほうでも、ボランティアをやりたいんだけど、どういふのがあるかわからないというお話が非常に多かったものですので、市役所の市民活動推進の、どういふ団体が何をやっている、連絡先がわかるようなホームページを2年くらい前に作ったんです。勿論、それだけ見ても、わかりにくいところは多いと思いますけれども、それを見ていただいて。

スポーツを実際にやったら健康になれる、そういうのがわかったら皆さんがもっと興味を持っていただける、そういう面にもっと力を入れたいと思っております。

### 《参加者0さん》

最初、市長が言われた平均寿命・健康寿命について、健康寿命が10歳くらい短いということをお倉敷市の指標にして、これをあげていくと。これが一番明確じゃないかと思うんです。健康寿命をあげる。それが指標になると思うんです。それに向かって倉敷市は一生懸命に頑張っていけばいいんじゃないかと思いました。なぜ、岡山県は悪いのかと、おそらく医者の方が多いいんじゃないかと。数が多いということは薬とか。

## 《市長》

いや、お医者さんの数が多いというよりも。病気にかかった時に、倉敷中央病院を始めとして、良い病院がたくさんありますので、病気にかかったときに、パッとかかれば大丈夫だと思っている人が多いと。それは間違いですけど。それで日ごろはあまりされないで、年配になったときに健康寿命ではないという部分が長くなっているという、たぶん傾向ではないかと思いますが。

## 《参加者Oさん》

恐らく、岡山県の方は、健康診断を受けるまじめな人が多いんだと思います。で何か1つあると心配性・まじめ。すぐ病院に行って、色々なことをして、逆に悪くなるとんじゃないかと私は思っているんです。それはわかりませんが。分析してもらって、なんで岡山県の倉敷市は悪いのか。

## 《参加者Pさん》

今日は、生涯現役を目指すまちづくりというこのテーマをお聞きして、現在取り組んでいる活動から、是非、投げかけ、お問いかけしてみたいと思い、参加させてもらいました。

個人的なことなんですけど、このテーマにすごく関係があるので。私は30代半ばで、実の母と父を相次いで、がんで亡くしました。厳しい看護、闘病の数年間を通して、人が生き抜いて死んでいくことの、痛切な現実を目の当たりにしました。それで当たり前なんですけど、すべての人に平均寿命が用意されているわけではないということを感じて。その後30代半ばでしたが、現在に至る25年あまり、その時の価値観とか自分の中の大事な優先順位の順番に、主に市民活動・ボランティア馬鹿と自分で思うくらい、色々な活動を一生懸命させていただいてきました。

でも、このテーマの生涯現役を目指すまちづくりという方向に向かっていくなれば、やはり、いきいきとしたシニア世代を過ごす、たくさんの市民の人が、30代・40代の子育て真っ最中の時から、私たちのように50代・60代っていう各年代で、自分がいきいきやりがいを感じて、楽しさを感じる職業・ボランティア・趣味・活動という色々なジャンルに大いにトライして、自分に合うものということに取り組んでみるのが、豊かなシニアライフに向けて、とても大切だなと思っています。

今日、一人お誘いして、倉敷の美観地区の絵を、水彩スケッチを、一生懸命描いて、もう20何年、30年以上、観光のことも絵を通して頑張っておられる方をお誘いしたんですが、70代にしてまだまだ活躍されて、全国から来られる方に絵を描きながら、声をかけてこられて、倉敷の魅力を発信しておられます。

児島・玉島の市民交流センター、それから市役所にあります市民活動センター、そういうすばらしい施設があって、そこにはたくさんの公民館講座のようなものもあって、先ほどのような方も言われましたが、何かそういうものに出会いたいと思っている市民の人と情報があるセンターと、出会いとかマッチング、皆さんが活動に参加できるような。それからさっき言われた、段々と引き継ぐ人がいなくなったと言われる社会奉仕の役員の方々にも、それにふさわしい人材の方が、実は近くにいらっしゃる場合もあると思うんです。そういった情報と人とが、うまく出会って、その人らしく本当にいきいきと輝いて過ごされるような町でありたいと思って、市民活動をしています。部署で縦割りだけでなく、クロス

オーバーな色んな関係のある部署がご一緒になって、冊子を発行したり、そういう案内・情報提供のできる役目の案内人とかが行政のほうにもできたら、今よりも、もっともっとすばらしい倉敷になるんじゃないかと思います。

#### 《市長》

ありがとうございます。先ほどの方も言うていただきましたけれども、もっとわかりやすく、かつ、皆さんがやりたい時に相談しやすいような体制づくりをしないといけないなと思っております。

#### 《参加者 Q さん》

生坂の憩いの家を管理しているんですけど、倉敷に30ちょっと憩いの家があるんですけど。その中で、どこにもあると思うんですけど、カラオケの設備があるんです。これがもう10年を過ぎているという状態で、修理がきかないということですけど、代替がない。販売していないということで、あとどうなるかと。どこでもやっていると思うんですけど、カラオケが結構、人気がいいんです、年寄りに。毎日まではいかないけど、ずっと部屋がうまっているという状態で。壊れたらどうなるか、何もできないということになるんで、その辺のことを、考えてほしいなということなんです。

#### 《市長》

非常に具体的な陳情を。調べてみますが、今、カラオケのことを言われましたけど。

今日はまちづくりのことですので、カラオケのことも含めて、時間も過ぎましたので。今日は最初、健康のことから主に入りましたけれども、食事のこと、生きがいくくり、公民館活動、またスポーツのこと、それからボランティア活動のこと、また今、カラオケも声を出すのは健康に非常にいいわけですのでそういうこと、子どもさんたちのことも言われました。生きがいの大きな面で世代間の交流っていうのがもっと進んでいくようにすれば、子どもさん・子育てにもいいし、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんにもいいということだと思います。

また、各委員さんたちの活動もまだまだ知られていない部分もありますんで、各団体の活動についても、多くの皆さんに知っていただきたいと思います。男性の料理の話もしていただきました。これからの倉敷の社会を作っていく中で、姫路市さんの定義ですけど、皆さんが自分でいきいき暮らしていける社会が、生涯現役のまちづくりになっていくと思いますので、市としましても皆さんと一緒に、色んな情報を皆さんが掴んで、自分の興味があるところに行けるように、またそれがほかの人の役にもたって、倉敷市は健康寿命が高いと、かつ倉敷市は介護保険は金額が少なくすむと、健康保険もなるべく少なくすむというようにして、皆さんがどこに住もうかという時に、倉敷市に。「子育てするなら倉敷」ですけど、年配になっても倉敷市というふうに益々なるように、頑張っていきたいと思っていますので、今日は本当に貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。